

福井県産【大麦・小麦】の
収量アップを目指して!!

フクムギ情報

JA福井県

No.1

● 麦播種予定の圃場は稲刈り前から排水対策の準備を！！

麦の単収は、播種前の圃場状態で決まります。播種前の圃場準備をしっかりと行うため、稲刈り後のできるだけ早く圃場の排水対策を行い、良好な苗立ちを目指し、品質や収量向上に努めましょう。

1. 麦類の栽培ポイント

- 大麦播種を予定している圃場は、コンバインのワダチを残さないよう、事前に暗渠を開放しよう。
- 稲刈り後、秋雨・台風になる前に、稲刈り品種切替の合間に額縁排水、補助暗渠の作業を行う。
- 額縁排水溝を深く掘ってますか？ 中溝の施工間隔は広くないですか？ 圃場の排水性に応じて施工する。

2. 排水対策のポイント

① 額縁排水

- 額縁排水溝は、水稲刈取後できるだけ早く行い、圃場の乾燥に努めましょう。
- 深さ：25cm以上
- 額縁排水溝の施工後は、排水口に接続する。

補助暗渠(サブソイラー)は、
透水性・排水性が悪い圃場に最適です。

サブソイラー補助暗渠は額縁排水溝設置後すぐに行い、額縁排水溝と連結し本暗渠と直交するように施工しましょう。

② 補助暗渠(サブソイラー施工)

- 施工間隔：通常2～4m。排水が悪い圃場は、1.5～2mと狭くする。
- 施工深さ：約30cm

- 額縁排水溝を掘った後、排水溝底から引くように施工する。

③ 明渠(中溝の施工)

圃場内排水溝の施工

- 深さ：25～30cm。
- 中溝間隔：5～30m。圃場条件、麦の播種作業に応じて設定する。(排水が悪い圃場は、播種1往復の間隔で中溝を施工)
- 排水口からは、中溝を施工する。(雨水の速やかな排水)
- 額縁排水溝や圃場内排水溝は、必ず排水口に接続する。(手直し実施)

作土層

硬盤層

心土層

サブソイラーは、土中に亀裂を入れ、硬盤層や心土層を破碎し、水みちを確保することで、透水性・排水性を向上させます。